

環境白書の刊行にあたって



県政史上未曾有の大災害となった令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨の被災地では、被災者の方々の懸命な取組や、県内外からの温かいご支援により、復旧から復興に向けた動きが少しづつ進展しています。県では、本年を「復興元年」と位置づけ、被災者の方々の生活と生業の再建を加速させるとともに、本格的な復旧と創造的復興の実現に向け、全力で取り組んでおります。

能登は、人口減少と高齢化が急速に進んできた地域であり、復興に際しても、今後の人口減少を見据える必要があります。一方で能登には、壮大な自然環境や、日本の原風景ともいえる里山里海に育まれた多様な生物資源といった固有の魅力があります。これらの能登の特徴を踏まえた復興には、先進技術を活用したインフラ整備や、自然環境の保全・利活用といった、環境面からのアプローチが必要不可欠であり、昨年6月に策定した「石川県創造的復興プラン」では、環境政策分野のリーディングプロジェクトとして、『自立・分散型エネルギーの活用などグリーンイノベーションの推進』や『トキが舞う能登の実現』等を盛り込んでおります。

グリーンイノベーションの推進については、能登地域の道の駅において、太陽光発電、蓄電池、急速充電器を一体的に導入し、再生可能エネルギーを活用して能登を電気自動車で周遊できる環境を整備してまいります。

トキの放鳥については、今年7月に、放鳥場所を羽咋市南潟地区に決定いたしました。引き続き、放鳥ケージの設置や観察マナーの普及啓発、放鳥式の開催など、来年6月頃の放鳥に向けた準備に万全を期してまいります。

また、「石川県成長戦略」に掲げる「幸福度日本一の石川県」の実現に向け、潤いのある生活環境を創出するとともに、本県の恵み豊かな環境を次世代へ継承することが重要であると考えております。本県環境施策の拠り所となる「環境総合計画」について、国の計画改定を反映するとともに、再生可能エネルギー推進計画と統合して一体的に改定することとしており、現在、改定作業を進めているところであります。今後とも、本県ならではの工夫を凝らした環境施策を充実・強化してまいります。

この白書は、環境の現状や課題、令和6年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様の理解を深めていただく一助となることを願うとともに、各種の取組について積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いに存じます。

令和7年10月

石川県知事 馳 浩